

タイの高齢者向け施設紹介：Naya Residence（1/4）

■概要

- オーナー兼医師として、部屋や運営などをマネジメントしている。
- マンション2棟、ホテル1棟が20年前から運営されていた。2021年にホテル棟の4-10階の空きスペースをレジデンスにリフォーム
- 現在は、レジデンス70部屋、ホテル130部屋で運用中。レジデンスは2022年1月にオープンし10部屋埋まっている。
- 施設内にプール、テニスコート、ジム2、船着場、レストランなどあり。
- 料金は1ベッドルームで5万バーツ（65平米）、2ベッドで6万バーツ、5年契約10年契約で1万バーツくらい安くなる。
- 賃貸は期間で契約、WIFI、部屋の掃除、スポーツクラブなどの料金を含む。別棟のマンション利用者はレジデンスの会員となり、サブスクでNayaのサービスを利用することができる。ゆくゆくはNayaへ転居することも選択肢
- ペットは犬や猫など小さければ同居ok
- シニアレジデンスとしてタイで初の登録、リハ施設としても登録している。
- Eldercare Innovation Awards2019取得
- 銀行と開発中の介護保険を実証している

■スタッフ

- スタッフは看護師24時間ケアセンターに常駐、PT・栄養士は日中のみ。個別の介護士や看護師を雇うことが多く、PTが看護師に教えることが多い。医者が各患者を見ている。フィットネスのインストラクターは系列のフィットネスジムから派遣

タイの高齢者向け施設紹介： Naya Residence （2/4）

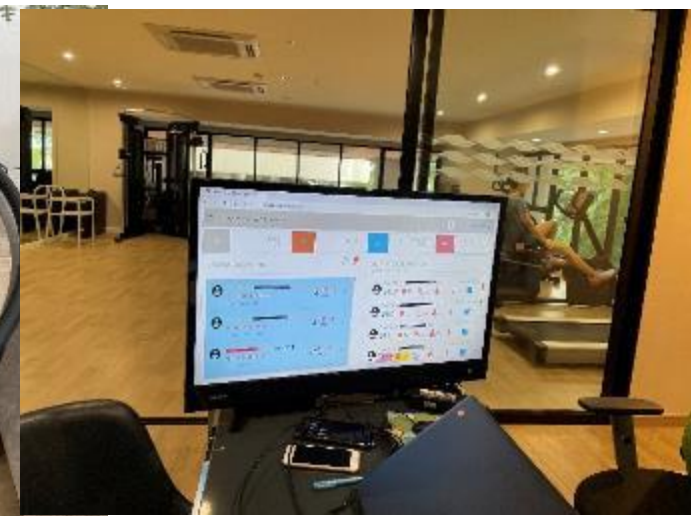
■生活

- フレイル予防を意識して運動、栄養、社会参加の機会を多く作っている。高タンパク食やコグニサイズも導入している
- 入居者がかかりつけ医で年1回受ける健康診断の結果は施設に共有される。
- 入居者が病院にかかる場合は生活する中で記録されている運動量やバイタルサインを病院に情報提供する。
- 基本的に高齢者だが自立している人を受け入れており、介護が必要になったら施設へ転院となる。転院時に情報提供する
- 毎日エクササイズや工芸（Naraの粘土手芸）などのイベントが開催されてる。
- 「バイバイ車椅子プロジェクト」など車椅子に頼らないようにするイベントを実施、看護師、リハ、患者と徐々に段階的に高める。
- 食事内容は高血圧、糖尿病の人はだいたい何を食べたらいいか知ってる。スポーツクラブにレストランがあり情報共有、特別食提供するレストランとも共有してる。嚥下食が必要な人はまだいない。タンパク質の付加を麺や粉として提供が可能。問題なければ自分で作るかクラブからオーダー、体組織計やVital情報から問題があれば食事内容は調整する。

■IT

- SCGの子会社でウェルネスをやってるDoCareのシステムを入れている。
- 持ち運び可能でGPS入りのナースコールがある。それを持っていれば転倒、不動検知、睡眠時間、コール、電話が可能で、異常があった場合、常駐看護師から救急システムへの連絡対応が可能。
- 血圧、血糖、体重、運動量もBluetoothでダッシュボードへ共有、夜間トイレが頻回な場合など看護師がアクションプラン作成。
- 上記を患者ごとのレポートを医師の診察時に提出する。年間の健康診断は行きつけの主治医、月ごとに相談を行う。
- システム値段（ベーシック：モバイルコール、コール、センサー）で1ユニット1200バーツ/月、購入できるがアップグレードが必要なので、サブスクリプションにしている。
- プライバシーの問題で使っていない人もいる。ペンダント式のセンサーが必要となるため、非接触センサーの需要はあるかもしれない。

タイの高齢者向け施設紹介： Naya Residence (3/4)



タイの高齢者向け施設紹介： Naya Residence (4/4)

